

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほっぶ東区		
○保護者評価実施期間	R7年3月1日		～ R7年3月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	R7年3月1日		～ R7年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月22日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携による安心感の提供：保護者との日頃からの密な情報交換や、面談、助言等により、子どもの状況について共通理解ができてきていること。また、家族支援プログラムや研修会、情報提供の機会を設けるなど、家族への支援も行っている。	PDCAサイクルによる業務改善：保護者や職員からの意見等を把握する機会を設け、業務改善につなげている。	アセスメントの充実：標準化されたツールを用いたフォーマルアセスメントと、日々の行動観察を含むインフォーマルアセスメントを組み合わせ、子どもの適応行動の状況を多角的に確認することで、より個別性の高い支援に繋げることが期待される
2	個別支援計画に基づく丁寧な支援：子どもの特性やニーズ、課題を客観的に分析し、個別支援計画を作成していること。計画には、本人支援、家族支援、移行支援など、必要な項目が適切に設定されている。	研修会会の確保：職員の資質向上のため、研修受講や法人内研修の機会を確保している。	地域との連携強化：地域の児童発達支援センターとの連携や、放課後児童クラブ、児童館との交流、地域の子どもの活動機会を設けるなど、地域との連携をさらに強化することで、子どもの社会性の発達や地域での包括的な支援体制の構築に繋がることが期待される。
3	安全への配慮と体制：事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、訓練を実施するなど、安全への体制を整えている。	チーム支援の徹底：活動プログラムの立案をチームで行い、支援開始前後の打合せや振り返りを行うことで、チームで連携した支援を意識している。	情報発信の継続と工夫：定期的な通信の発行や、HP、SNS等を活用した情報発信を継続し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を積極的に発信することで、保護者や地域住民との更なる信頼関係の構築や、利用者の増加に繋がる可能性がある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への支援に関する課題：家族支援プログラムの実施や、保護者会等の開催による保護者同士の交流機会の提供、兄弟姉妹への支援などが十分に行えていない。	人的資源の不足：職員の配置数が適切でない場合や、職員の専門性が不足している場合、十分な支援を提供することが難しい。	保護者支援の充実：家族支援プログラムの充実、保護者交流の機会提供、兄弟姉妹への支援など、保護者への支援を充実させるための取り組みが必要である。
2	地域との連携に関する課題：放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもの活動機会の提供などが十分に行えていない。	環境要因：子どもの活動スペースが十分に確保されていない、生活空間が構造化されていない、バリアフリー化や情報伝達への配慮が不十分であるなど、環境要因が課題となっている場合がある。	地域連携の強化：放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもの交流機会を増やすなど、地域との連携を強化するための取り組みが必要である。

3	情報提供に関する課題：定期的な通信やホームページ、SNS等での情報発信が十分に行えていない。	計画と実践の乖離：放課後等デイサービス計画が適切に作成されていない、または計画に沿った支援が行われていない場合、支援の効果が十分に発揮されない。	情報発信の強化：定期的な情報発信、ホームページやSNSの活用など、情報発信を強化するための取り組みが必要である。
---	--	--	--